

望山山出れ

去る二月十九日付

「市民タイムス」は、

『「国際音大」また延

期一停滞する条件整

備」と題する一面の記

事で、懸念の国際音楽

短大の文部省への設置

認可申請がさらに一年

先送りとなり、開校予

定時期が早くて平成六

年四月に延びた現状を

報じていた。少年時代

に才能教育研究会の前

身・松本音楽院第一期

生として鈴木鎮一先生

の御指導をいただき、

また、設立発起人の未

席にも運んでいる者

としては、大変残念に

思う。

私は現在、音楽とは異なった道を行ってお

一方で文教行政や大学の設置、改編の構想に接する機会も多いの

ない。

第二には、わが国の

高等教育が大学よりも

大学院へと重点が移り

つつあるときに、短期

大学の限界が各所で指

摘されていることであ

る。すでに全国で約四

十学科もある既存の音

楽系短大は、たとえば

卒業生が小・中学校の

音楽教諭にもほとんど

なれないという現状と

その将来性

に悩んでお

り、現に東

京近郊の音

楽短大は四年制への移

行や将来を展望した国

際文化学科もしくは情

報関連学科を含む再編

を必死になって模索し

ている。この点では、

既設の四年制の芸大や

音楽大ないしは教育学

部系の音楽関係学科が

同様の改編を試みつつ

あることも認識してお

くべきであろう。

第三には、短大とい

えども、大学設置基準

を文部行政上充足しな

ければならないので、

教授陣や大学の敷地、

財産その他、そのよう

な条件を整えなければ

ならないことである

(教授陣に限って言え

ば、学生定員を一学年

百二十名としても、一

般教育科目担当を含め

て十数名から二十名の

専任教官が必要になる

国際音大構想への私見

う。

以上に概観したよう

な難点は、世界に誇る

鈴木メソッドの場合、

すべてクリアーできる

ものと私自身は期待す

るけれど、五島みどり

さんと諏訪内晶子さん

らの国際的活躍にもか

かわらず、たとえ芸大

や桐朋をトップクラス

で卒業しても、一般に

演奏家ないしは音楽家

の日常がいかにかん

現状にあるかは、今月

号の『新潮45』掲載の

青山泉「すすり泣く私

のバイオリン」が軽妙

な筆致で実にリアルに

描いている。

私は先頃、松本の才

能教育会館ホールで世

界各地から来た留学生

たちが二十名前後、チ

ャイコフスキーのヴァ

イオリン協奏曲第一楽

章を鈴木先

生の指導で

演奏してい

る姿に接

し、こんなに程度の高

い音楽教育が世界にあ

るものかといたく感激

した。

だが同時に、このよ

うな教育は、松本音楽

院以来の才能教育研究

会という私塾にして

はじめて可能なのであ

って、それは大学設置

基準で縛られる短期大

学や四年制大学ではお

そらく不可能であり、

むしろ小規模の大学院

大学こそ目標にすべき

ではないかと私は思

う。このような私見は、

鈴木先生はじめ才能教

育関係の方々にもすで

に申し上げたけれど、

わが国の高等教育の拡

充や国際化の必要から

も、多数の留学生を容

む大学院の方がむしろ

設置基準も柔軟性を増

していることは、最近

の大学審議会の答申を

見るまでもなく、私自

身、勤務校の大学院博

士課程新設の任に当た

ってみて十分了解して

いるつもりである。

従って国際音楽短大

ではなく国際音楽大学

院を、というのが私の

提言である。

さもなければ、信州

教育の低迷が叫ばれて

いる今日、長野県や松

本市は信州大学に負け

ないくらい立派な、し

かも将来性のある大学

の新設に努めるべきで

はないかと思う(お隣

りの静岡では静岡県立

大が、富山では私立の

富山国際大学が、新潟

には大学院大学として

の国際大学が各県の国

立大とは別個に改編な

いし新設されており、

また、遠く北海道の釧

路では市と近郊の町

村、それに民間が協力

して組合立の釧路公立

大学をつくり、すでに

かなりの人材を集めて

いる。そのなかに既

存の大学では充足され

ない広領域の学際分野

からなる国際関係学部

や環境情報学部と並ぶ

かたちで芸術文化学部

を、現在の学校法人・

才能教育学園を母体に

開設するといったスケ

ールの大きい構想にこ

そ着手し、新しい時代

の信濃教育の復権を目

指すべきではなからう

か。

(中嶋権雄・東京外

国語大学教授)